

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20 年 11 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	4077300194		
法人名	医療法人 聖峰会		
事業所名	グループホーム ひまわり3号館		
所在地	福岡県うきは市吉井町福益121-2 〒839-1332 (電話) 0943-76-4520		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年11月26日	評定確定日	平成21年3月5日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 16 年 4 月 17 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人	非常勤 人 常勤換算 13 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(100,000 円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,380 円程度	

(4) 利用者の概要(10 月 31 日現在)

登録人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	4 名	要介護 2		4 名	
要介護 3	5 名	要介護 4		4 名	
要介護 5	1 名				
要支援 1	名	要支援 2		名	
年齢	平均 85.6 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 聖峰会 田主丸中央病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームから耳納連山が一望でき、柿の果樹園と隣接しており、日当たりも良く自然環境に恵まれたホームである。ホーム内はガラスを一面に使った明るい室内で、庭の畑の風景が自然に目に入り、家庭的な雰囲気を出している。自然の豊かさに加え「優しい笑顔に謙虚な姿勢、いつでもどこでも穏やかに思いやりの心で接します。」という理念をもとに、ホーム館長、管理者をはじめ職員は熱意をもってケアに従事し、利用者一人ひとりを尊重した安心と尊厳ある生活が営まれるよう支援している。また、利用者の表情の豊かさに、穏やかでその人らしい安らぎのある日々を過ごし、ゆとりのある生活の営みを見ることが出来る。地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、近隣小学校の授業参観へ参加するなど、地域との交流も図られており、今後ホームの発展はもちろん地域の認知症ケアの推進役となることが期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員へはミーティング時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で家族の同意を確実に得て介護計画書の見直しを行うなどの成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審にあたり、外部評価項目の内容を全職員で確認するなどの取組みがある。また、自己評価内容や外部評価内容項目を確認することで、日常業務の見直しや職員への気づきを生み出し、質の向上に向けてのレベルアップを図るなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	区長、行政の担当職員、地域包括支援センター職員、利用者・家族などの参加のもとに2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告を行ったり、運営についての提案に対し意見をもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時の声かけや夏祭りなどの行事参加時、運営推進会議などを通じて、利用者の日常の様子や行事参加の様子などを報告している。月1回ホームだよりを送付し、利用者の健康状態や暮らしぶり、法人内の健康教室の案内などを伝えている。また、運営推進会議や家族の面会時などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。相談・苦情についての意見箱などを設け、意見や要望を言い出しやすい雰囲気作りへの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域や近隣小学校の運動会へ参加したり、ホーム行事の夏祭りへ民生委員や地域の方が参加するなど、地域の人々との交流が図られている。また、地域の文化祭に利用者が作った作品を出展したり、近隣の方から柿などの差し入れをいただいたり、散歩時の挨拶など、自然な形で地域交流への取組みがある。近隣小学校へ利用者が作った雑巾やお手玉などを寄贈する計画もある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	法人内の理念である「地域のために 地域とともに」 を掲げ、職員は地域との関係づくりを意識しながら業 務に携わっている。ホームとしての理念を職員全員で 話し合い、「優しい笑顔に謙虚な姿勢。いつでもどこで も穏やかに思いやりの心で接します。」とし、理念に基 づいた支援に積極的に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	リビングや廊下など、ホーム内に理念を掲示し自然 に目に入る工夫がある。また、毎朝申し送り時に唱和 するなどの取組みがある。ホーム理念だけでなく、法 人全体・法人内介護部の理念も念頭におきながら利 用者への支援にあたるなど、理念の浸透と実践への 取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域や近隣小学校の運動会へ参加したり、ホーム 行事の夏祭りへ地域の方が参加するなど、地域の 人々との交流が図られている。また、地域の文化祭に 利用者が作った作品を出展したり、近隣の方から柿 などの差し入れをいただくなど、自然な形で地域交 流への取組みがある。近隣小学校へ利用者が作った 雑巾やお手玉などを寄贈する計画もある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員へはミーティング時に改善についての協 議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程 で家族の同意を確実に得て介護計画書の見直しを行 うなどの成果が見られる。今回の受審にあたり、全職 員で評価項目の内容を確認し、質の向上に向けての レベルアップを図るなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、行政の担当職員、地域包括支援センター職員、利用者・家族などの参加のもとに2ヶ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況についての報告を行ったり、運営についての提案に対し意見をもらうなど、運営推進会議を活かした取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当職員や地域包括支援センター職員の参加がみられる。運営推進会議を通じた連携や疑問点などについてその都度相談するなど、利用者の生活の質の向上に向けて行政とともに取り組んでいる。また、行政主催の研修会や勉強会に参加し、連携を図っている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政主催の勉強会に参加し、地域包括支援センター職員から、制度について説明していただき、ミーティングにて受講報告会を行うなど、職員全体で理解を深めている。家族への成年後見人制度や日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)の概要や利用手順の説明については、今後の課題である。		運営推進会議やホーム通信などを利用して、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援と、職員全体によるより一層の制度の理解を促すための取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや夏祭りなどの行事参加時、運営推進会議などを通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。また、月1回写真を掲載したホーム通信を送付し、利用者の健康状態や暮らしぶり、外出、行事参加の様子、法人内の健康教室の案内などを伝えている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事参加時の働きかけ、家族の面会時などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。また、相談・苦情についての意見箱を設け、意見や要望を言い出しやすい雰囲気作りへの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は必要最低限にとどめるように配慮している。新しい職員が入職した際は、1ヶ月程度は日中のみ勤務とし、少しずつかわりを持たせるなかで管理者が見守り、指導にあたるなどの支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等による制限はない。料理の得意な職員に料理を作ってもらったり、畑仕事が得意な職員に家庭菜園を行ってもらうなど、職員一人ひとりの能力や経験を活かし、やりがいを持って勤務していけるように支援している。また、外部研修参加や資格取得を目指す職員に対しては、勤務の調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人の尊厳については理念にも掲げており、日々の業務のなかで理念に基づいたケアを通じて、自然な形で人権を尊重する取組みがある。今後、法人内研修や行政で行われる人権研修に職員が参加する予定である。	○	今後予定している法人内での勉強会や行政で行われる研修への参加、事業所内での勉強会の実施など、さまざまな機会を利用しての積極的な人権学習や啓発活動への取組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修や法人内の介護事業部での研修、行政主催の勉強会など、多種の研修・勉強会に参加し、職員全体のスキルアップを図る取組みがある。また、職員の希望や管理者が研修内容などを考慮して研修を促すなど、外部研修への参加の機会を確保している。毎月のミーティングにて受講報告会を行ない、知識の共有に努めるなどの取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の介護事業所の行事への参加を通じて、情報交換や交流を図るなど、サービスの質の向上に向けた取組みがある。行政の介護事業部やグループホーム部会での勉強会に管理者が参加し、情報交換や交流が行われている。職員間レベルでの交流などについては、今後の課題である。	○	今検討されている行政主催のグループホーム部会の勉強会への参加を実現され、職員レベルで交流する機会を定期的に設け、更なるサービスの質の向上にむけての取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学や体験入居など、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取り組みがある。入居直後は、利用者へは頻繁な声かけを行い、かかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の役割を尊重し、日々のケアの中で支えあう関係づくりに配慮している。梅干しや漬物の作り方、裁縫など、日常のかかわりを通して自然と学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。また、利用者が自然と職員へ感謝の言葉をかけるなど、共に支えあいながら暮らしていこうとする関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に情報収集した生活歴や希望などに基づき、介護記録や申し送り、ケアカンファレンスなどを通じて情報を共有し、職員全員で話し合いながら、介護計画に反映させるなどの取り組みがある。日々のかかわりを通じた利用者一人ひとりおよび家族の希望や意向の把握については、今後の課題である。	○	利用者の生活を支援するためのアセスメントとして、センター方式などを活用し、本人・家族の思いや暮らし方への希望などを把握・共有し、利用者本位の支援に向けた更なる取り組みを期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に情報収集した生活歴や家族の希望などに基づき、介護支援専門員や担当職員が介護計画書を作成し、ケアカンファレンス時に職員間で協議し、介護計画書へ反映させるなどの取り組みがある。家族面会時の声かけや日々のかかわりを通じた利用者・家族の思いや希望、意向を反映させた介護計画書の作成については、今後の課題である。	○	利用者本位の視点に立ち、利用者・家族の希望や意見の把握に努め、家族が主体的にかかわっていただくような取り組みと利用者、家族の希望や意見を反映させた介護計画書の作成に取り組まれることを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のケアカンファレンス時や日々の申し送り時に 本人の状況や様子、目標などの情報交換や共有を職 員全員で行っている。また、3ヶ月毎及び状態変化の 際は、介護計画書の見直しや再作成を行うなどの取 組みがある。全職員による月に1度程度の利用者や 家族の意向の確認は行われているものの、内容の記 録については、今後の課題である。	○	月に1度程度は新鮮な視点で利用者・家族の意向 や状況の確認を行った内容について、職員間の意 識の統一と情報の共有として、内容の記録が図られ ることを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関や訪問看護 ステーション等の連携支援、かかりつけ医への受診 介助を行うなど、利用者の状況や家族の要望に応じ て柔軟に対応している。また、入院時は、家族に代 わって着替えを届けたり、隔日に見舞いを行うなどの 支援を行っている。		
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の希望があるかどうか把握 している。ホーム協力医や訪問看護ステーションなど との連携により、利用者の状態把握を行い、利用者 の状態に応じて協力病院への受診の支援がある。ま た、利用者の以前からのかかりつけ医の受診につい ては、ホームにて支援するなどの取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化や終末期におけるホームの方針に ついて説明し、同意を得ている。日常の何気ない会 話を通じて本人の気持ちを聞くなど、利用者・家族の 意向や希望を把握し、本人・家族の希望に沿った支 援がある。また、状況の変化に伴い、その都度家族、 主治医、事業所を交えて協議し、方針を共有していく 取り組みがある。	○	アセスメントなどの早い段階での重度化や終末期 における本人・家族の意向を確認し、内容の記録を 図り、職員間で共有するなどの取り組みを期待しま す。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや日常のかかわりの中で、職員の意 識の向上を図ると共に、常に尊厳を持った支援を心 がけている。タイミングを見計らったのさりげない声か け、丁寧な呼称、視線を合わせて笑顔で傾聴するな ど、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した対応が 見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの気持ちを尊重し、決して無理 強いせず、様子を見ながら声かけを行っている。ま た、利用者一人ひとりの生活リズムに配慮して、食事 を取る場所、食事にかかる時間、居室で過ごすタイ ミングなど、利用者のペースや気持ちを尊重した対応 が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	栄養バランスや利用者の好みなどを取り入れたメ ニューをもとに、ホームにて調理している。野菜の皮 むきや食事の準備、配膳、食後の後片付け、皿洗い など、利用者一人ひとりができる範囲で協力しなが ら行うなどの取組みがある。利用者、職員が共に食卓 を囲み、ゆったりと和やかな雰囲気の中で食事を楽し めるような工夫が見られる。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日、入浴できる様に支援しており、利用者の希望 や状況に応じて柔軟に対応している。希望があれば、 夕食後の入浴も可能である。入浴にかかる時間や回 数など、本人の希望に沿ったケアが実施されている。 入浴拒否の方へは無理強いることなく、声かけを工 夫するなど、入浴を楽しめるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日々の会話の中から、利用者の興味や関心がある ことなどを聞きながら、利用者に応じた役割や楽しみ ごとなどへの支援をしている。洗濯物干しやたたみ、 パッチワーク作り、家庭菜園の草取り、皿洗いなど、 利用者一人ひとりの持っている能力を活かすような取 組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見など定期的な外出に加えて、日常生活での散 歩や買い物、地域の文化祭や運動会、小学校の授業 参観や運動会への参加など、外出への支援を行って いる。また、個別の希望に沿って、少人数での買い物 や外食、ドライブなど、利用者の状況に応じて柔軟に 支援している。		
(4) その人らしい暮らしを続けるための生活環境の支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。きめ細かな観察により 外出傾向のパターンを把握し、さりげなく声をかけたり、 利用者と一緒に出かけるなど、利用者の自由と安全に 配慮しながら適切に支援している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回消防署の指導による避難訓練を通じて、誘導 方法などを学ぶ取り組みがある。避難訓練の予定つ いては運営推進会議にて適宜連絡報告し、地域の方 にも参加を働きかけるなどの取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	カロリーや栄養バランスを考慮した食事の提供や利用者 の状況に応じて管理栄養士に相談するなどの取組み がある。また、利用者ごとの食事摂取量、水分摂取量 の把握・記録を行うなど、栄養摂取や水分確保への 支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く、一面がガラス張りで天井も高く、開放 的で明るい空間となっている。リビングからは耳納連 山の景色が一望に見渡せ、快適で心地良い。リビン グには季節感を感じる飾りつけをほどこし、心和ませ る空間を醸し出している。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室はベッドやクローゼット、テレビが備え付けられ ており、シルバーカーや造花、写真、調度品など、利 用者にとって馴染みの物が持ち込まれており、居心 地良く過ごすための居室作りへの工夫や配慮が見ら れた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号